

■ タイムテーブル

12:30	13:00~14:30	14:30~14:45	14:45~16:45	17:00~17:30
開 場	オープニング 基調講演 50分 トークセッション 40分	会場移動	分科会 A 分科会 B 分科会 C 分科会 D	クロージング

■ 会場へのアクセス - 大船渡線 BRT 栃ヶ沢公園駅 徒歩 1 分 -

会場 陸前高田コミュニティホール
(岩手県陸前高田市高田町字栃ヶ沢 210 番地 3)

会場へのアクセスは下記の QR コードから
陸前高田市公式 HP を参照ください。



陸前高田市コミュニティホール

※ - お車でお越しになる皆様へ -

会場の駐車場には限りがございます (47 台)。
複数人で車でのお越しの際には乗合せをお願い致します。

■ お申込み方法

■ ウェブサイトからお申込みください

@リアス NPO サポートセンターのホームページよりお進みください。



<http://rias-iwate.net/tohoku-npo-forum-2019/>

■ FAX でもお申込みいただけます

添付の FAX 申込用紙にて以下の項目をお知らせください。

ご所属、お名前、電話番号、E-mail、希望分科会 (第 1 希望、第 2 希望)

送信先 : @リアス NPO サポートセンター FAX 番号 : 0193-27-8121

【主催者】とうほく NPO フォーラム in 陸前高田 2019 実行委員会

(構成団体) 特定非営利活動法人みやこラボ / 特定非営利活動法人おおふなと市民活動センター
特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター / 一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター
気仙沼まち大学運営協議会 / 特定非営利活動法人いしのまき NPO センター / 特定非営利活動法人地星社
一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム / 多賀城市市民活動サポートセンター
南相馬市市民活動サポートセンター
(事務局) 特定非営利活動法人アットマークリアス NPO サポートセンター
認定特定非営利活動法人日本 NPO センター

お問合せ

特定非営利活動法人 アットマークリアス NPO サポートセンター (横澤)
〒026-0021 岩手県釜石市只越町 1-3-2 / E-mail: yokosawa@rias-iwate.net
TEL : 0193-27-8400 / FAX : 0193-27-8121

NPO support link

主催
とうほく NPO フォーラム
in 陸前高田 2019 実行委員会

とうほく NPO フォーラム in 陸前高田 2019

いま 復興の先を見据えて
現在 NPOは何をするべきか
2019 年 11 月 27 日 (水)

岩手県陸前高田市 【陸前高田市コミュニティホール】

開始 13:00 終了 17:30

オープニングセッション

『持続可能な地域の仕組みとは』

-NPOに期待される役割とは何か-

開催趣旨

東日本大震災発災から 8 年が過ぎ、被災各地ではハード面の復旧が一定程度進み、目に見える部分では復興が進んでいると言える状況です。しかし、被災者の生活復興や地域の再生というソフト面においては、今尚その道のりは長い、という実感がある事もまた現状です。

昨年開催した「とうほく NPO フォーラム in 気仙沼 2018」では、「復興の先を見据えて《今、地域のあり方を考える》」というテーマを設定し、「地域における多様な担い手が、主体性を持ってつながりを生み、住民を巻き込んで未来を創る」というまとめを行いました。

このまとめを受けて、今年は「復興の先を見据えて《今、NPO は何をするべきか》」というテーマを掲げました。NPO だけでなく、市民、企業、行政を含む、地域の多様な担い手の役割についても考える場として、本フォーラムを実施します。

■ 講演

加藤憲一氏

(神奈川県小田原市長)

■ トークセッション

戸羽太氏

(岩手県陸前高田市長)

加藤憲一氏

鹿野順一氏

(@リアスNPOサポートセンター代表理事)



<http://rias-iwate.net/tohoku-npo-forum-2019/>

後
協

援：復興庁 岩手県 宮城県 福島県 陸前高田市
力：武田薬品工業株式会社



本プログラムは「タケダいのちとくらし再生プログラム」の支援を受けて実施しています。 <http://www.inochi-kurashi.jp/>

オープニングセッション

持続可能な地域の仕組みとは 【NPOに期待される役割とは何か】

講演
加藤憲一氏

トークセッション
加藤憲一氏
戸羽太氏
鹿野順一氏



かとう けんいち
加藤 憲一氏 神奈川県小田原市長

1964年生まれ。神奈川県小田原市出身。京都大学法学部卒業。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、漁業、商業ビル企画管理、地域シンクタンク代表などを経て、2008年5月に小田原市長就任。2012年、2016年に再選し、現在3期目を務める。将来都市像に「市民の力で未来を拓く希望のまち」を掲げ、持続可能な地域社会モデル「いのちを守り育てる地域自給圏」の実現のため様々な取り組みを推進している。



とば ふとし
戸羽 太氏 陸前高田市長

1965年、神奈川県足柄上郡松田町生まれ。東京都町田市育ち。東京都立町田高卒。会社員を経て1995年4月から陸前高田市議を務め、その後副市長を務める。2011年2月の市長選に初出馬、初当選を果たした。市長就任直後に東日本大震災により壊滅的な被害を受け、復興に向けた新しいまちづくりを進めている。「夢と希望と愛に満ち次世代につなげる共生と交流のまち陸前高田」を一番のコンセプトに陸前高田独自の「ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり」を目指し、現在3期目を務める。



かの じゅんいち
鹿野 順一氏

NPO法人@リアスNPOサポートセンター代表理事
1965年生まれ。釜石市育ち。高校卒業とともに上京し、大学で広報・メディアを学ぶ。2004年にNPO法人@リアスNPOサポートセンターを設立し、商店街の振興や町の活性化に奔走する。「前よりいい東北をつくる」ことを目指し、救援物資の配達や仮設住宅の見回りなど住民側に立った活動を数多く実施。2011年4月にNPO法人いわて連携復興センターを設立し県内および全国のNPOと連携して情報発信や中間支援、雇用創出などの活動に奔走。現在も釜石市を拠点にコミュニティ・まちづくり活動を行っている。

分科会 A 地縁組織と NPO のこれから

【NPOと多様な担い手の関係性、関わり方を考える】

地域課題の解決には、NPOと地縁組織との連携が不可欠と言われる。しかし、特定の課題解決に取り組むNPOと地域ニーズに対応する地縁組織との連携は進んでいない。本分科会では、復興の先を見据えた地域づくりに必要な、地縁組織とNPOの新たな協働のスタイルを考えます。



若菜 千穂 (わかな ちほ)氏
NPO法人いわて地域づくり支援センター常務理事

1972年茨城県取手市生まれ。1998年岩手大学大学院農学研究科(修士課程)終了後、札幌で民間コンサルタント会社に入社。2003年岩手大学連合農学研究科(博士課程)に社会人入学し、2005年博士(農学)取得。同年現職就任。専門は農山村地域の交通計画および協働による地域づくり支援。また、岩手県内の地域コミュニティで、自分たちの課題を自分たちで解決できる力(=地域力、実践力)をついていくサポートにも取り組んでいる。



宝楽 陸寛 (ほうらく みちひろ)氏
NPO法人SEIN事務局長
ビジネスからボランティアまで、広報や情報発信、組織運営の支援者として活動。NPOや市民と行政、企業が協働で地域課題を解決し、人やまちが元気になるコミュニティづくりを進めている。子どもから高齢者まで、多様な人が集まる場において、互いの強みを活かすチームワークづくりを大阪南部を中心に進めている。泉北ニュータウンでは、企業・市民・行政・大学など多様な主体の得意を持ち寄り集合的に解決するコレクティブ・インパクトでのプロジェクト型ファシリテーターをつとめ、子どもの貧困、買物困難者、次の自治のあり方のモデル構築など課題解決に取り組む。

コーディネーター 四倉 禎一郎 (いしのまきNPOセンター)

分科会 C 地域の作り方

【被災地の未来を見据え、そのあるべき姿を考える】

復興の先を見据えれば、いかに個々の市民が主体感を持ち、地域課題の解決に参加するかが問われています。しかし、市民による多種多様な考え方や行動が存在します。本分科会では、多くの市民の巻き込み方、市民の主体性の活かし方を学び、市民参加のスタイルについて考えます。



横田 能洋 (よこた よしひろ)氏
茨城NPOセンター・コムモンズ代表理事
1967年生まれ。千葉県出身。茨城大学卒(地域社会論専攻)。学生サークルでのボランティア経験や、企業での社会貢献推進業務などを経て1996年に有志で茨城NPO研究会を発足。1998年3月のNPO法成立を受けて、同年11月に茨城NPOセンター・コムモンズを設立。同年コムモンズの常務理事・事務局長となる。以来、様々な市民団体のNPO法人化の相談に応じたり、研修や調査の企画運営、NPOと企業や労働組合などの協働事業のコーディネートを行っている。社会的排除に関する取り組みに重点をおいており、2015年9月の水害で被災された常総市民の支援活動を行うたすけあいセンター「JUNTOS」のセンター長を務める。



小玉 順子 (こだま じゅんこ)氏
NPO法人おおさき地域創造研究会事務局長。
大崎市古川出身。平成の合併前の2003年から活動を開始2010年に法人化し拠点を持つ。地域の「話し合う場」をつくり続け、まだまだ地域にある力を感じている。2016年7月から「おおさき移住支援センター」の運営を受託。4年間で792人の移住をサポートしている。また近隣の7つの市町の連携事務局として、移住者や関係人口を増やす活動もおこなう。

コーディネーター 三浦 まり江 (陸前高田まちづくり協働センター)

分科会 B 地域における企業との連携

【課題解決のための連携の手法や具体的なアクションを考える】

持続可能な地域の形成には、セクター間の連携が不可欠です。しかし、各セクターがそれぞれ独自に、課題の解決の取り組みに留まるのが現状です。本分科会では、NPOと企業(事業者)の連携の意味を再確認し、相互の思いや考えを知り、課題解決に必要なつながりについて考えます。



日下 均 (くさかひとし)氏
長町一丁目商店街振興組合相談役。
1950年宮城県白石市沢端町生まれ。法政大学経済学部卒業。昭和60(1985)年長町一丁目商店会入会。平成6(1994)年振興組合設立から理事として商店街振興に携わる。2002年、全国的な商業自由化に伴う大型小売店進出によって商店街が激変し小売店舗は減少。その対策として「みんなにやさしい街づくり」をテーマとして将来の高齢化も考慮し「タウンモビリティ事業」を実施。障がい者も住民も店主も連携共存するまちづくりを行ってきた。



千葉 和義 (ちば かずよし)氏
特定非営利活動法人Azuma-re 代表理事

1967年宮城県生まれ
2008年、任意団体NPO Azuma-reを設立。翌2009年に法人化。主に、公共施設の管理運営や、商店街・企業・学校・行政・自治会など多様なセクターによる連携事業・コーディネイトをおこなっている。3年前に山形県東根市に居を移し、現在、栗原市と東根市の2拠点生活中。

コーディネーター 深澤 秀樹 (ふくしまNPOネットワークセンター)

分科会 D 若者の巻き込み方

【次世代・若者の地域参画の仕組みについて考える】

これからのまちづくりや市民活動を考えるとき、若年層の積極的な参画はきわめて重要である一方で、地域を見渡せば「わかもの不足」が至る所で大きな課題となっています。本分科会では実際の参画の事例を通してわかもの地域活動への参画のヒントを皆さんと一緒に考えます。



矢野 明日香 (やの あすか)氏
一般社団法人まるオフィススタッフ
岐阜県出身。1989年1月19日生まれ。大学を卒業後、東京のIT会社でエンジニアとして働く中で「食」への関心が生まれ、田舎暮らしに憧れる。2016年、気仙沼市に移住し、地域支援員として担い手育成支援事業を担当し「ぬま大学」等、10〜30代の若者が地域に関わるきっかけづくりを行っている。



立花 淳一 (たちばな じゅんいち)氏
からくわ丸代表
1986年生まれ。気仙沼育ち。高校卒業後に介護士として働く。2011年に東日本大震災を経験し、翌年ボランティアで来た「よその」と地元との若者で結成されたコミュニティ「からくわ丸」と出会う。その後、まちづくりに関心を持ち、2013年にからくわ丸の代表を引き継ぐ。2018年には13年間勤めてきた介護職を辞めて農業の世界に飛び込み 現在修行中。

コーディネーター 成宮 崇史 佐藤 賢 (気仙沼まち大学運営協議会)